

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名	藤田えりか
所属	地域保健学域総合リハビリテーション学類 理学療法学専攻
学年	4
留学先	王立ブノンペン大学
留学期間	2023/3/7~2023/3/15

留学レポート Study Abroad Report

[カンボジアに留学しようと思った経緯]

私は1年生の時にアメリカとイギリスでの短期留学を経験し、英語のスピーキング力はもちろん、何事に対しても課題点やその解決策を見出したり、自分の意見を相手に理解してもらえるまで伝えたりする力が足りないことに気づきました。そこで2年生以降はコロナ禍でもできることを考え、オンライン留学やオンライン英会話、TOEFL対策などを通じて“英語で自分の意見を伝える”練習を重ねてきました。今回は自身の専攻の長期実習や国家試験をすべて終えたタイミングで、これまで積み重ねてきたことの力試しをすることができると考え、現地で英語でディスカッションやプレゼンテーションをさせてもらえる本プログラムに申し込みました。

さらに、昨年度から中百舌鳥キャンパスにあるI-wing なかもずでカンボジアからの留学生と共同生活をしており、彼女のおかげでカンボジアに興味を湧き、以前から訪れてみたいと考えていました。そのルームメイトの人柄、考え方、英語力はすべて素晴らしく、日本生まれ日本育ちの私にとって非常に刺激的だったので、カンボジアでより多くの新たな出会いを期待し、カンボジアへの留学を決めました。

[この留学でカンボジアの学生から学んだこと]

この留学で王立ブノンペン大学の学生から学んだことは、大きく2つあります。

1つ目はプレゼンテーション力です。今回の留学ではSDGsと食に関する問題点を挙げ、解決策を発表する機会がありました。私は問題点や解決策を考えて現地の学生に英語で説明したり、他のメンバーの意見をまとめたりすることはでき、1年生の短期留学時と比べると成長したと実感することができました。しかし、プレゼンテーション力に関してはまだ不足していると感じました。今回は1,2日間しかプレゼンテーションの準備期間がなかったこともありますが、話している途中で論点がずれてしまうのではないかと、時間が過ぎてしまうのではないかなどと心配しながら、少しメモを見ながらの発表になったことが反省点です。一方で、現地の学生はほぼ全員が、何もメモを見ずに聞いている人へ訴えるように熱弁していました。プライベートで話すときは大人しい性格の学生でも、発表となると熱い口調になる方もいて驚いたほどです。ほとんどの学生が私より年下であるにもかかわらず、自分の意見をどうにかして伝えたいという気持ちの強さは私よりもはるかに上だと感じました。日本人は英語の文法が違ったら、発音が違ったら、といったことも考えてしまいがちですが、カンボジアの学生はそのような事よりも何よりも自分の考えを伝えたいと強く思い、恥ずかしさを捨ててでも一生懸命に表現しようとする姿勢に感銘を受けました。私も彼らのようにならなければと刺激を受けることができました。



2つ目は、それぞれの学生が自分に誇りを持っていることです。訳もなくただ自信に満ち溢れているのではありません。出会った学生全員が、自分が学んできたことやこれまでの生き方、将来のことに対してきちんとした考えや目標を持ち、努力を怠らず、自分や家族、ましてやカンボジアという国に対して誇りを持っている



と感じました。現地の大学に到着後にキャンパスツアーをしてもらったときは、現地の学生が様々な研究室での実験について非常に詳しく説明してくれ、さらに体験までさせてもらいました。どの学生も自分がしている研究について分かりやすく説明することに慣れていて、英語で一先懸命日本人学生に伝えようとする姿が印象的でした。最初は当たり前のように聞き入ってしまいましたが、逆に私がカンボジアの学生に自分の研究室や実験内容を英語で分かりやすく説明できるか？と考えました。正直、カンボジアの学生のように相手を楽しませながら意気揚々と伝えることは今の自分には難しいと感じました。私もカンボジアの学生のように、今自分が勉強していることに自信を持ちつつ努力を重ねて、誇りを持ちたいと思いました。さらに、カンボジアの王宮に現地の学生と一緒にいった時には、歴史的な置物や絵画に関して、私たち日本人に詳しく説明してくれました。カンボジアの学生は皆、カンボジアという国について知り尽くしていて、歴史の良かったことも悪かったことも全て語る事ができるほど、カンボジア人であることに誇りを持っているのだと感じました。外国人に対して自国の魅力や歴史を伝えたいと強く思う気持ちも見習いたいと思いました。

[心に残ったこと]

心に残ったことはカンボジア人の心の温かさです。今回出会った王立ブノンペン大学の学生、先生、バスガイドさん、市場で働いている方すべての方々が、優しく、温かい雰囲気を持っていました。自分自身に誇りを持ちながらも他人の意見も尊重し、相手の素晴らしいことを素直に認めて褒め、感じたことを飾らずに表現する姿は、カンボジア人の国民性であるように感じました。日本で尊重されている考え方におもてなしという言葉がありますが、カンボジア人のおもてなしは建前ではなく、本当に心から迎え入れてくれているような温かさが素敵でした。



今回の留学では何度か現地の市場に行きました。特に大学周辺のブノンペンの市場は、現地の言葉しか通じないにもかかわらず、商品を買ってほしい気持ちから呼び込みがかなり激しいところもあったので初めは買い物のためらってしまっていました。しかし、市場の方々は言語が通じなくても笑顔で接してくれ、笑いを誘ってくれ、楽しくコミュニケーションをとることができました。このように現地の方々の心の温かさのおかげで、徐々に見たことがない食べ物にもトライすることができたのは非常に良い思い出です。

[修了後のモチベーション]

プログラム修了時に、関わったすべての現地の学生と連絡先を交換しました。日本に帰国して約2週間が経過していますが、今でも毎日複数人のカンボジアの学生と連絡をしています。将来日本の大学に長期留学したいと考える学生も多く、私自身も海外に長期留学したいと考えているので、近い志をもったカンボジアの学生たちとずっとつながることができているのは非常に大きなモチベーションです。前述の、自身に不足していたプレゼンテーション力を磨き上げることに加え、将来の大きな目標に向かって少しずつステップアップすることは決して簡単な事ではありませんが、今回プログラムを共にした友達を思い出しながら今後も切磋琢磨したいと思っています。

[補足]

カンボジアの料理は白ご飯に好きなおかずを選んで一緒に食べるパターンが多かったです。麺類を注文するとパクチーのような野菜の香りが漂うスープと春雨に似た麺が特徴的でした。

また、現地の学生はほぼ全員がスクーターでキャンパスまで通っていました。私は日本でもスクーターなどに乗ったことがないので、現地でもスクーターにトライすることは難しく、トゥクトゥクに乗っていました。

